

令和5年度 川越市幼保小連携モデル指定研究

研究の成果と課題



川越市マスコットキャラクター ときも

川 越 市 教 育 委 員 会

目次

- 1 ひまわり南幼稚園・大東東小学校
- 3 ふくはら幼稚園・福原小学校
- 4 レイモンド川越保育園・新宿小学校
- 5 今成保育園・今成小学校

(様式1)

令和5年度 川越市幼保小連携モデル指定研究の成果と課題

園・校名 ひまわり南幼稚園

1 幼保小連携会議内容

月	日	会議内容
4	26	第1回・小学校1年生の現在の状況 ・幼稚園からの情報提供 ・指定園の効果検証について確認 ・川越市架け橋期カリキュラム作成の共通の視点を基に、「期待する子供像」「遊びや学びのプロセス」「指導上の配慮」を話し合う。
7	12	第2回・小学校1年生の現在の状況 ・幼稚園からの情報提供 ・効果検証について小学校より園へフィードバック ・現在あるアプローチカリキュラム、スタートカリキュラムを見直し、「園で展開される活動／小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等」を話し合う。
11	15	第3回・現在あるアプローチカリキュラム・スタートカリキュラムを見直した結果を園・校で共有し、さらによりよくなるように検討する。 ・「園で展開される活動／小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等」「子供たちの交流」「家庭・地域との連携」を立てる。 ・子供たちの交流の細案を立てる。

2 交流内容

月	日	今年度の内容等
7	12	小学校と幼稚園の共通の課題について（聞く力と言語能力）《教職員間》
11	15	小学校と幼稚園の活動内容の系統性について《教職員間》
3		小学校に幼稚園の年長児が訪問し、遊ぶ。《園児と児童》

月	日	令和6年度の計画内容等
5		校庭で遊ぼう（小学校に招待、校庭で一緒に遊ぶ）
9		運動会（新入児かけっこ）
3	6	小学校探検（小学校の1日を紹介、校舎案内、一緒に遊ぼう）

3 成果と課題（○成果・●課題）

- 小学校に進学した後の子どもの成長を知ることができ、小学校との連携をとる大切さを感じた。
- 小学1年生の年間カリキュラムを実際に見て、子どものスムーズな発達にとって学びの連続性が重要であると思った。
- 幼稚園と小学校が指導内容のあり方について考える土台作りとなった。
- 幼稚園指導要領・学習指導要領について、幼稚園と小学校がお互いに共通理解を図る必要がある。
- 小学校と幼稚園の交流は大切であるが、園・校、それぞれの行事等における日程調整や教職員の異動などで定期的に継続することが難しいこともある。
- 子ども同士の交流を年間計画に入れ、交流をした後のつながりを大切にして、形だけの交流にならないようにする必要がある。

(様式1)

令和5年度 川越市幼保小連携モデル指定研究の成果と課題

園・校名 大東東小学校

1 幼保小連携会議内容

月	日	会議内容
4		第1回 ・小学校1年生の現在の状況 ・幼稚園・認定こども園・保育園からの情報提供 ・指定園の効果検証について確認 ・川越市架け橋期カリキュラム作成の共通の視点を基に、「期待する子供像」「遊びや学びのプロセス」「指導上の配慮」を話し合う。
7		第2回 ・小学校1年生の現在の状況 ・幼稚園・認定こども園・保育園からの情報提供 ・効果検証について小学校より園へフィードバック ・現在あるアプローチカリキュラム、スタートカリキュラムを見直し、「園で展開される活動／小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等」「子供たちの交流」「家庭・地域との連携」を立てる。
10		第3回 ・現在あるアプローチカリキュラム・スタートカリキュラムを見直した結果を各園・校で共有し、さらによりよくなるように検討する。 ・「園で展開される活動／小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等」「子供たちの交流」「家庭・地域との連携」を立てる。 ・子供たちの交流の細案を立てる。

2 交流内容

月	日	今年度の内容等
7	12	小学校と幼稚園の共通の課題について（聞く力と言語能力）《教職員間》
11	15	小学校と幼稚園の活動内容の系統性について《教職員間》
3		小学校に幼稚園の年長児が訪問し、遊ぶ。《園児と児童》

月	日	令和6年度の計画内容等
5		校庭で遊ぼう（小学校に招待、校庭で一緒に遊ぶ）
9		運動会（新入児かけっこ）
3	6	小学校探検（小学校の1日を紹介、校舎案内、一緒に遊ぼう）

3 成果と課題（○成果・●課題）

- 幼稚園において、どのような「期待する子ども像」を掲げ、それに向けどのような具体的な指導がされているのかということを知ることができた。
- カリキュラムを作成するにあたり、小学校（主に1年生、スタートカリキュラムの部分）での指導や、活動を見直すことができた。
- カリキュラム作りにおいて、教員同士の連携をとる中で、園児達が小学校入学を間近に控えた年度末に、子どもたち同士の交流の場を設けることができた。1年生の子どもたちにとっても、進級にむけての気持ちを高める良い機会となった。
- 今年度は、カリキュラムを作成する段階であり、実際に交流を図ったり、カリキュラムを意識した指導をしたりというところまでにはいかなかった。今後は、カリキュラムをもとに、園との情報交換の機会をより多く持ち、子どもたちの実態をしっかりと共通認識し、スムーズに小学校生活が送れるように指導していきたい。

(様式1)

令和5年度 川越市幼保小連携モデル指定研究の成果と課題

園・校名 学校法人ふくはら幼稚園

1 幼保小連携会議内容

月	日	会議内容
4	25	第1回 ○小学校1年生の現在の状況 落ち着いており、今はいい状態である。話も聞けて、指示も通り、喧嘩やトラブルもない。一方、みんなと一緒に頑張れない子が多くなると問題も起きる。素直に一生懸命頑張れる子にしたい。 また、友達と仲良くと言うが、小学校は学習が主体で、学習が分からないとくじけてしまう。勉強が苦手な子をよく見ていきたい。今は、まだ緊張しているが、ゴールデンウィーク明け、夏休み明けに注意が必要である。 いろいろな家庭があり、自分の生活が精一杯で、子供の世話のできない家庭もあるかもしれない。また、高学年になると、努力だけではどうにもならないこともある。できるという成功体験の積み重ねが重要である。前向きな姿勢が見られるかどうかが課題である。 ○幼稚園・認定こども園・保育園からの情報提供 園だより4月号とふくはら幼稚園のアプローチカリキュラムを配布し、園庭で元気に遊んでいる様子を伝えた。4月まで、家で過ごしていた年少組の新入園児は泣いている子もいるが、年中組・年長組とも落ち着いた幼稚園生活を送っている。
7	7	第2回 ・指定園の効果検証について確認 ・川越市架け橋期カリキュラム作成の共通の視点を基に、「期待する子供像」「遊びや学びのプロセス」「指導上の配慮」を話し合う。 ○小学校1年生の現在の状況 ・福原小学校の教育目標「かしこく・やさしく・たくましく」 ◎瞳のかがやく子… 知 「かしこく」 ・気づき、考え、学び合う子(主体的・対話的に学ぶ子) ・話をよく聴き、よく考え、伝え合う子(理解し・思考し・表現する子) ◎心のかがかやく子… 徳 「やさしく」 ・心を込めてあいさつができる子(他者を尊重する礼儀正しい子) ・互いの良さを認め、励まし、助け合う子(思いやりのある心豊かな子) ◎汗のかがかやく子… 体 「たくましく」 ・目標を持って進んで運動する子 ・自分の安全と健康を守れる子 ○1年生の先生より情報提供 ・3時間目から来るなど、登校渋りも少しいる(学習についていけない。ひらがなが読めない等)けれど、1年生にしては、落ち着いている。 ・能力的には低くないけれど、空間に対して敏感な子、及び繊細な子が増えて

	いる。例⇒自分が注意されているのではないけれど、そのような空気が苦手な子もいる。 ・少数だが、勉強がつらい子もいる。4が指で出せない子もいる。差が大きい が、例年よりはよい感じがする。 ・聞いたことを理解している子が多い。 ・幼稚園や保育園でやった経験があると、小学校での学習も、生き生きしてい る。生活科は、経験値が重要。児童の実態からスタートしている。 〈幼保小の連携〉 ・11／10(金)ドリーム祭り。2・3校時。 ・2月、小学校に入学する年長児を招待。 ○幼稚園・認定こども園・保育園からの情報提供 【貴精保育園さんより】 ・貴精保育園で大切にしていること。 ⇒ ○思いやり、話を聞く、遊ぶときは遊び、食べるときは食べる。 ○ルールは自分たちで考えて。 ○仲よく過ごす、相手の気持ちを考える、最後まで取り組む。 ○いろいろな運動を楽しむ、安全・健康に運動する。 ○知より、友達と仲良くする。(知・徳・体) ・遊びの中で、学びの下地。 ・お絵描きで、色に興味をもつ。 ・ハードルを低く、敷居を低く、垣根を低くする。 ・活動を工夫する。 ・遊びはただの遊びではない。 楽しいことや好きなことは自覚的な学びである。 ・子供たち同士で話をする。 行事などで、自分の意見を言えるようにする。 ・食育…畑で3月よりじゃがいもを育てている。 お泊り保育で、夜、カレーをつくる。 ・行事で子供は変わる。そして、言葉がけを大切にしたい。 ・いつでも幼児保育の場は無限にある。 【ふくはら幼稚園より】 ・ふくはら幼稚園で大切にしていること ⇒ ○遊ぶ喜びと成就感の味わえる幼稚園 ○自分の存在感があり自分に自信のもてる幼稚園 ○みんなで活躍する楽しさを味わえる幼稚園 ・プール遊びが始まり、プールの中で飛び跳ね、子供たちは伸び伸びしてい る。夏祭りの準備が始まり、製作の導入等、イメージをもたせるために、言 葉の情報を大切にしたい。 ・マスクが外れ、顔が見えるようになり、よかった。
--	--

(様式 1)

		・効果検証について福原小学校よりふくはら幼稚園へフィードバック 8 / 25 (金) 子どものよりよい成長を考える研修会で参加教員が小学校の書類を受け取り、幼稚園で、考察する。 10 / 13 (金) モデル指定園より、研究成果発表会。 山村穂高先生の指導により、無事に発表ができた。 幼稚園と小学校では、「聞く力、頑張る力」の評価点に差があった。 「聞く力」の要素として、注意力、好奇心、理解力、共感性がある。 そして、これらは関連し合っているが、一人一人の子供に合ったチャンネルを見つけ、それを足掛かりとすることも大切である。 同じように、「頑張る力」の要素として、教師や友達からの支援、友人関係・人間関係、自己効力感、意欲、粘り強さ、持久力が考えられる。同じく、子供に合ったチャンネルを見付けてやりたい。
11	17	第3回 ・現在あるアプローチカリキュラム・スタートカリキュラムを見直した結果を各園・校で共有し、さらによりよくなるように検討する。 ・「園で展開される活動／小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等」「子どもたちの交流」「家庭・地域との連携」を立てる。 ・子どもたちの交流の細案を立てる。 ◎小学校の生活科で表現すると、結び付いていくのではないかな。 生活科の「冬を楽しもう」などに、幼稚園の行事を書いていく。 共通点を確認できるとよい。幼稚園でやったことがあると、それが手掛かりとなって小学校の学習や生活につながる。 ・幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿 (1) 健康な心と体、(2) 自立心、(3) 共同性、 (4) 道徳性・規範意識の芽生え、(5) 社会生活との関わり、 (6) 思考力の芽生え、(7) 自然との関わり・生命尊重、 (8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚、 (9) 言葉による伝え合い、(10) 豊かな感性と表現、 架け橋期カリキュラムの中の「④園で展開される活動」は、幼稚園の行事を並べるのではなく、小学校の生活科に合わせて記入していく。 それとともに、上記の10の姿の「(8)」などを入れていけばいい。 ◎幼稚園や保育園での散歩のついでに、小学校の校庭に寄らせていただく。 そして、1年生などの体育の授業を遠くからでも見学させていただく。 ◎2月の幼稚園・保育園と1年生との交流会で、入学当初、不安だったりしたことを幼稚園児に教える。 ◎初めての場所は緊張する。場所を知り、場所の安心感をもたせたい。 ⇒ 校庭に入れてもらう。 ◎人的な安心感をもたせる。1年生が上級生と楽しく過ごしている。 ⇒ 1年後の自分の姿を想像する。大人とは、目線が違う。 ◎幼稚園と小学校の情報交換を必要に応じて行う。 ◎保護者との連携は、お迎えの時など、気軽な話も大事である。

(様式1)

2 交流内容

月	日	内容等
11	10	ドリームまつり  校長先生、1年生の学年主任の先生に出迎えていただいた。 そして、校長先生から、「来年の入学を待っています」というお話もいただいた。その後、3班に分かれて、各教室を訪問し、ゲームを楽しんだ。 ボーリングゲーム、蜘蛛の巣ゲーム、もぐらたたきゲームなど、いっぱい楽しんだ。卒園児の子供たちも、大きくなったと感じた。また、1年生の教室の廊下には、色紙をちぎり、色画用紙に貼った絵画作品があった。(お花畑の絵、昔の海の生物の絵、楽しいハロウィンの絵など) 短い時間だったが、小学生の縦割りグループの児童と大きな教室で、ふれ合うことができた。
2	7	○小学校1年生との交流会 ふくはら幼稚園年長児 貴精保育園年長児 福原小学校1年生 1、ねらい (年長児)・学校訪問を通して、学校の様子を知り、入学への期待をもてるようにする。 (1年生)・来年度入学してくる1年生(年長児)に喜んでもらいたいという思いをもち、新しい1年生(年長児)にも分かるように工夫して学校生活のことを教えたり、いっしょに楽しく遊んだりすることができるようにする。(生活科) 2、時 間 10:00～11:20 3、日 程 はじめの会(体育館) グループ活動へ出発 ※ グループ活動の例 ○ 学校案内 ○ 教室紹介(ロッカーへのランドセルの入れ方、) ○ 勉強の仕方 ○ 本の読み聞かせ ○ 遊具で遊ぼう ○ 歌を歌おう など 終わりの会 お見送り
1	17	小学校の先生が来園し、個々の園児の様子を伝える。
3	末	4クラスにクラス分け

(様式1)

3 成果と課題 (○成果・●課題)

○ 成 果

(1) 3回の話し合いをもち、架け橋期カリキュラムを作成できたことがよかった。お互いに顔を合わせて、話し合う中で、「④園で展開される活動」について、幼稚園の行事を並べるのではなく、小学校の生活科に合わせて記入できた。

それとともに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」をカリキュラムに入れられたのがよかった。

(2) 幼稚園は、今実施していることを、より充実させていくことが幼保小の連携につながるかと再確認した。お互いに認め合い、尊重し合うことが連携の第一歩と感じた。

● 課 題

(1) ふくはら幼稚園と福原小学校・福原中学校で年間行事の調整を、毎年、1月にしている。

福原市民センターも小・中学校に隣接しており、青少年を育てる福原地区会議も大いに機能している。このよさを生かし、今後とも継続していくことが課題である。

(2) コロナ禍以前は、小学校1年生が、地域めぐりとして、幼稚園の中に入り、見学したり、子供たちが質問したりしていた。こまめに足を運ぶことが大事であり、ちょっとした事の積み重ねをしていくことが大事と感じた。

交流とは言えないかもしれないが、準備等、時間を費やさず、とにかく足を踏み入れ、お互いに顔を合わせるだけでもしていけたらと感じた。行事等、忙しい中だが、行事等の様子を見学させていただくだけで、幼稚園の年長組の子は雰囲気を感じると思う。

11月末の持久走大会を年長組の子供たちに見学させようと思ったが、ひよこ会のリハーサルと重なってしまったため実施できなかった。

(様式1)

令和5年度 川越市幼保小連携モデル指定研究の成果と課題

園・校名 川越市立福原小学校

1 幼保小連携会議内容

月	日	会議内容
4	25	第1回 ・小学校1年生の現在の状況 学校教育目標の共有 ・ふくはら幼稚園・貴精保育園からの情報提供 園便りとアプローチカリキュラムの共有 ・指定園の効果検証について確認 ：昨年度の研究についての確認 ：幼稚園で使用していたチェックリストを小学校用に改定し、学期に1回 チェックを行う（聞く力、目標に向かって頑張る力）
7	7	第2回 ・小学校1年生の現在の状況 入学当初からの変化、学校生活における課題の共有 ・ふくはら幼稚園・貴精保育園からの情報提供 園便りと具体的な保育の様子の共有 ・効果検証について チェックリスト（小学校用）の確認 ・川越市架け橋期カリキュラム作成の共通の視点を基に、「期待する子供像」 「遊びや学びのプロセス」「指導上の配慮」を話し合う。
11	17	第3回（郡山市視察） ・現在あるアプローチカリキュラム、スタートカリキュラムを見直し、「園で展開される活動／小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等」「子供たちの交流」「家庭・地域との連携」を立てる。 ・現在あるアプローチカリキュラム・スタートカリキュラムを見直した結果を共有し、さらによりよくなるように検討する。 →小学校生活科の学習と円の行事との関連や共通点を考える。 生活科以外の教科との関連も考える。 ・子供たちの交流の細案を立てる。 交流…場の安心、人の安心が入学への楽しみにつながるように 入学後の環境の変化を少しでも減らせるように 例）園児の散歩のコースに小学校の校庭を開放する 小学校への行事に招待する 生活科での交流をする（「まちたんけん」「新しい1年生を招待しよう」など）

(様式1)

2 交流内容

月	日	内容等
11	10	年長児をドリーム祭り（全校児童集会）へ招待し、一緒に遊びを楽しむ。 →学校施設の大きさや、全体の雰囲気を知ってもらう。また、様々な学年の児童が交流し合って楽しく活動している様子を知ること、小学校への期待を持たせる。 ○1年生だけでなく、他学年との関わりの中で、楽しく参加できていた。小学生も小さいお客さんに優しく接していた。 
2	7	生活科「新しい1年生を招待しよう」 学校が楽しいところだと分かってもらえるよう、児童が計画して、一緒に遊んだり、学校について教えたりする。 （単元計画） 新しい1年生を招待しよう （7時間） ①1年前の自分の気持ちを振り返る（一斉・黒板） ②新しい1年生にやってあげたいことを考える→グループで話し合う ③グループ活動で何をするか計画し、準備する。 ④新しい1年生を招待する。

3 成果と課題（○成果・●課題）

- 幼保小の会議を通して、互いに大事にしていることを話すことで、共通点を見付けたりよりよい交流について考えることができた。
- 幼稚園で「聞く力」「目標達成に向けて挑戦する力」を育てる研究を行っていただき、入学後も児童の追跡調査を行うことで、児童の力の伸びだけでなく、幼小それぞれの担任の見方の相違についても考えることができた。
- 小学校では学習指導要領を基に教科ごとに目標や内容が統一されているが、幼稚園は各園に特色がある。よりよい架け橋カリキュラムを作成していくためには、話合いの時間をさらに多く確保する必要があると感じた。

(様式1)

令和5年度 川越市幼保小連携モデル指定研究の成果と課題

園・校名 レイモンド川越保育園

1 幼保小連携会議内容

月	日	会議内容
4		第1回 ・小学校1年生の現在の状況 ・幼稚園・認定こども園・保育園からの情報提供 ・指定園の効果検証について確認 ・川越市架け橋期カリキュラム作成の共通の視点を基に、「期待する子供像」「遊びや学びのプロセス」「指導上の配慮」を話し合う。
7		第2回 ・小学校1年生の現在の状況 ・幼稚園・認定こども園・保育園からの情報提供 ・効果検証について小学校より園へフィードバック ・現在あるアプローチカリキュラム、スタートカリキュラムを見直し、「園で展開される活動／小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等」「子供たちの交流」「家庭・地域との連携」を立てる。
10		第3回 ・現在あるアプローチカリキュラム・スタートカリキュラムを見直した結果を各園・校で共有し、さらによりよくなるように検討する。 ・「園で展開される活動／小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等」「子供たちの交流」「家庭・地域との連携」を立てる。 ・子供たちの交流の細案を立てる。

2 交流内容

月	日	内容等
5	29	運動会の練習見学 プール掃除見学
11	30	給食交流会   
2	21	新1年生歓迎会

(様式1)

3 成果と課題 (○成果・●課題)

○幼保小連携会議をきっかけに、小学校の先生との交流が今までより密にできた。卒園児の様子を聞くことができ、在園中の様子をお伝えする機会があることはよかった。

○大人が密に関わろうとすることで、年長児が小学校に見学に行く機会が何回か設けることができ、子どもたちも小学校の雰囲気を感じることができた。園での生活のなかでも「1年生のお兄さんお姉さんがどのように過ごしていたか」を思い出し、自分たちで掃除当番を決めてやってみるなど、主体的に活動に関わる姿が多くなった。

●今回は共に研究したこともあったので、同じ小学校とのやりとりのみになってしまった。各小学校に卒園児がいるので、今後は多くの小学校の先生とどのように交流をしていくかが課題だと感じた。

(様式1)

令和5年度 川越市幼保小連携モデル指定研究の成果と課題

園・校名 川越市立新宿小学校

1 幼保小連携会議内容

月	日	会議内容
4	24	第1回 ・小学校1年生の現在の状況 ・幼稚園・認定こども園・保育園からの情報提供 ・指定園の効果検証について確認 ・川越市架け橋期カリキュラム作成の共通の視点を基に、「期待する子供像」「遊びや学びのプロセス」「指導上の配慮」を話し合う。
7	26	第2回 ・小学校1年生の現在の状況 ・幼稚園・認定こども園・保育園からの情報提供 ・効果検証について小学校より園へフィードバック ・現在あるアプローチカリキュラム、スタートカリキュラムを見直し、「園で展開される活動／小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等」「子供たちの交流」「家庭・地域との連携」を立てる。
11	8	第3回 ・現在あるアプローチカリキュラム・スタートカリキュラムを見直した結果を各園・校で共有し、さらによりよくなるように検討する。 ・「園で展開される活動／小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等」「子供たちの交流」「家庭・地域との連携」を立てる。 ・子供たちの交流の細案を立てる。

2 交流内容

月	日	内容等
4	下旬	運動会の見学 ・運動会練習に取り組む様子を、園児に見学してもらう。
11	30	生活科「あきのおもちゃをつくろう」秋祭り ・秋の自然物を生かしたおもちゃのお店を開き、園児に楽しんでもらう。 ・給食や掃除の時間の様子を、園児に体験・見学してもらう。 ・園児にも、園での学びを生かした出し物をしてもらう（ダンス）。 

(様式1)

2	下旬	生活科「新しい1年生を招待しよう」(モデル園を含む5園) ・入学してからの1年間の生活やできるようになったことを振り返り、学校のことを園児に伝える会を開く。
---	----	---

3 成果と課題 (○成果・●課題)

○年長の園児に、数回にわたって小学校の見通しを持ってもらうことができた。

○児童がお兄さん・お姉さん意識をもって、園児のために頑張る姿が見られた。交流の都度、自分たちの成長に気付く機会となった。

○児童の成長を園に伝えたり、支援の手立てとなる情報をもらったりすることができた。

○教員が、園児の実態や、児童が入学前までに幼児教育でどのような力を習得して入学しているのかを学ぶ機会となった。

●モデル園と年間を通じて、有意義な交流を深めることができた。負担のない程度に、他の園とも交流を図っていけるとよい。

(様式1)

令和5年度 川越市幼保小連携モデル指定研究の成果と課題

園・校名 今成保育園・今成小学校

1 幼保小連携会議内容

月	日	会議内容
4	20	第1回 ・小学校1年生の現在の状況報告 ・保育園からの情報提供 ・指定園の効果検証の内容について確認 ・川越市架け橋期カリキュラム作成の共通の視点を基に、 「期待する子供像」「遊びや学びのプロセス」「指導上の配慮」の話し合い
7	20	第2回 ・小学校1年生の現在の状況報告 ・保育園からの情報提供 ・効果検証について小学校より園へフィードバック ・「園で展開される活動／小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等」「子供たちの交流」「家庭・地域との連携」の確認・修正
11	30	第3回 ・架け橋期カリキュラムの最終確認 ・モデル指定研究成果発表会に向けての打ち合わせ

2- (1) 交流内容 (子ども)

月	日	内容等
10	5	秋のおもちゃまつり (感染症蔓延のため未実施)
12	1	校庭見学
2	22	ちびっこフェスティバル (学校探検)

2- (2) 交流内容 (教員)

月	日	内容等 (上記の会議以外)
7・8	26・9	電話にて効果検証の追加報告 (2～3回)
9	16	小学校運動会見学
12	18	指定研究成果発表会原稿作成

3 成果と課題 (○成果・●課題)

【保育園】

- 3回の会議など通して小学校と密に話す場ができた。
- 保育園での取り組みや個別支援内容を小学校と共有したことで、子どもたちが小学校生活や授業において、保育園で培ってきた力を発揮し大きく成長したと考えられる。
- 今後、完成した架け橋期カリキュラムを基に、小学校との「つながり」を意識した保育を

(様式1)

していく。また、年長クラスだけでなく園全体で共有していく。

- 入学先の小学校が複数あり、全ての小学校との連携は難しいが、子どもたちがより安心して入学できるよう、職員や子どもたちの交流を実施し広げていく事が必要だと考えられる。

【小学校】

- 保育園時代の子どもの様子等を知ることができ、子どもがすごく成長している、伸びようと頑張っている姿に気づくことができた。
- 小学校で力を発揮した児童がいたときに、園での経験が生きていることを実感することができた。
- 会議だけではなく、顔を知っているため、気兼ねなく電話することができ、スピード感のある連携も行うことができた。
- 引き継ぎの情報を深く知れることはもちろん、具体的なエピソードを聞けたり子どもの背景が見えたりととても貴重な話も聞くことができ、指導や支援に活かすことができた。
- 小中連携は学校全体での共有や学校間での先生方の交流がありますが、幼保小は1年担任でないとなかなか関わっていない現状がある。
- 誰が担任になっても行うことができる体制づくりを構築していく必要がある。
- 今成小学校に入学する他の園との連携や連携方法を模索していく必要がある。
(来年度は、今成小に24の保育園・幼稚園から入学する予定である。)